平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

世羅町立世羅小学校の取組

研究テーマ

「能動的な学びの実現」

～個に応じた支援を通して～

授業実践①（リサーチ・プラン）

◆第5学年　算数科　単元名「合同な図形」

◆本時の目標

合同な三角形をかくために必要な辺・角が分かり，合同な三角形をかく方法を考えることができる。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
・一生懸命に学習に取り組む姿勢を持っている。
・困っている友達に進んで教え合いができる。
・指示や発表を集中して聞くことができにくい児童が約3割いる。
・コンパス，分度器を使って正確に作図や計測ができにくい児童が約3割いる。

特別な支援が必要な児童の状況
【児童A】
注意散漫で，指示や発表を聞き取ることが十分でない。集中できる時間が短い。
【児童B】
注意を向けることが難しい。こだわりが強く，活動を途中でやめることが難しい。

指導・支援のポイント
①導入段階において，「やってみたい」「解いてみたい」と思えるような問題提示の工夫をする。
②個の特性を考慮した教材の工夫を考えて算数的活動を取り入れる。
③グループでの学び合いを取り入れる。
④視覚教材やICT機器を効果的に活用する。

授業実践②　実践の具体

1.　導入段階における問題提示の工夫

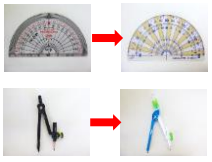
「6つの情報のうち，何個の情報を使えば合同な三角形がかけるだろう？」

情報を焦点化して提示し，印象づける。
（辺の長さ，角度を一つ一つ提示）

自力解決の見通しを持たせる。
（クイズ形式で，全員参加）

授業実践②　実践の具体

2. 個の特性を考慮した教材の工夫，算数的活動



分かりやすい，描きやすい教材の準備
ex 【分度器】目盛りが読みやすい
【コンパス】にぎってかける

3. グループでの学び合い

話型を使って自分の考えを言う。
説明しにくい児童へは**お助け**をする。

授業実践②　実践の具体

4. 視覚教材やICT機器の効果的な活用

【ipad】
自分のワークシートの**写真を撮り**，
自分の**考えを提示し**て発表させる。

【パワーポイント】
集中させたいものに**注意を向けさせる。**

【大型テレビ】
後席の児童にも**見やすい環境**を作る。

【黒板とテレビ画面との使い分け】
思考に必要なものは，**板書に残す。**

授業実践③　成果・課題

【成果】 全員，目標が達成できた。

○ 導入段階における問題提示の工夫
・スタートラインで全員参加。
・学習意欲の喚起。

○ ICT機器の効果的活用
・授業展開にテンポ！
・注意集中！

【課題】「より分かる授業」を目指す。

▲ 言葉だけの発表では，分かりにくい

授業実践④　今後の改善点

○　作図過程を見せながら発表させる。
・作図する機会を増やして，習熟を図る。

○　グループ活動の目的を明確にする。
・報告から，交流へ。
「どうして？」と反応ができるように。

○　キーワードを子どもから引き出す。
・揺さぶり発問をする。

普及・啓発①　拠点教諭の取組

世羅町特別支援教育研修会　　7月7日（火）実施

○授業公開　　B中学校
○各校において「実践したい支援ベスト3」

A小学校
①机上整理
②板書の構造化
・効果的な色の活用
③教具の工夫
・仕切りひも
・ワークシートの紙の厚さ
・タブレットの活用

B中学校
①指示の工夫
・明確化，具体化
・時間設定
②机上整理
③規律の徹底
・挨拶をそろえる
・聞く態度

普及・啓発②　拠点教諭の取組

世羅町初任者研修会　　8月20日（木）実施

○実践報告　「世羅町立世羅小学校の取組」
・通常学級における特別支援教育の考え方
・通常学級における特別支援教育の具体例

【初任者の感想】
○授業の流れをカードにして黒板に並べ，終わったらとっていく方法は，授業が今どこまで進んでいて，どのくらいで終わるかを明確にし，子どもたちに見通しをもたせることに有効であることが分かった。
○座席表に個々の課題や必要な支援を書き込んでおき，机間指導の時に活かすという実践がとても参考になった。
○言葉だけでなく，見て分かるように絵や言葉で指示を出す方法を取り入れていきたい。

普及・啓発③　拠点校の取組

○学校としての主な取組を研修会や地域公開研究会等で発信

【教育環境の整備】
・教室環境（黒板周り，机上整理）
・仕切りひも

【集団行動】
・無言で廊下歩行
・静かに一斉下校

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	・授業の前半段階において，分かりやすい提示ができ，児童を引き付ける工夫ができた。	・集団解決（全体発表）の際の展開の仕方を工夫する。
普及・啓発	・初任者研修において実践報告をすることで，通常学級においても特別支援教育の視点をもつことの必要性と，具体的方法を伝えることができた。 ・町内各校で行っている特別支援教育（環境面）の意味づけができた。	・校内においても町内各校においても，継続的な取組となりにくい。

次年度への展望

	取　組　の　重　点
授業実践	・「環境面」の支援とともに，「理解・習得」段階での支援を充実させる。 ・研究の教科の幅を広げる。
普及・啓発	・校内での一層の共通認識を図り，継続的な取組を図る。 ・拠点校として，積極的に授業公開を行う。